

ダルマアリ

Discothyrea sauteri

ハチ目
アリ科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

体長約 2mm。体色は黄褐色から赤褐色。触角は 8 節。体形はずんぐりしており、腹柄節は短く、腹部は第 1、2 節背板が発達し、腹部後端は前方を向く。複眼は小さく数個の個眼からなり、あまり突出しない。*Discothyrea* 属の種は他の節足動物の卵を摂食し、本種ではクモやムカデの卵を摂食することが確認されている。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東以南）、四国、九州、南西諸島；台湾

【伊豆諸島における生息環境】

他の地域と同様に、照葉樹林などの林床に生息し、腐倒木、腐切株、土中に営巣すると考えられる。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

三宅島からのみ記録されているが、近年の情報が不足している。伊豆諸島以外の分布地でも発見されることは稀であることから、生息密度は低いと考えられる。近年の噴火の影響により生息環境が悪化した可能性が高いが、不明である。

【関連文献】

増子恵一・寺山守, 1984; 寺山守・久保田敏, 2002.

(執筆: 森英章)



© 日本産アリ類画像データベース

ノコバウロコアリ

Pyramica incerta

ハチ目
アリ科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

体長 1.5mm。体色は黄褐色から赤褐色。頭部側縁は湾曲し、頭盾外周は鱗片状の体毛で縁どられ、前縁は中央部が多少くぼむ。大顎には鋸のように多数の小歯が並ぶ。触角柄節の外縁は基方約 1/3 のところで角ばる。胸部背面には体毛が複数直立し、前胸肩部には 1 対の顕著な長い縮れ毛をもつ。しばしばトゲズネハリアリ *Cryptopone sauteri* と共に採集されており、本種が盗食共生者である可能性が示唆されている。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生息環境】

他の地域と同様に、照葉樹林の林床に生息し、腐朽木中や落葉下に営巣すると考えられる。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

三宅島からのみ記録されている。伊豆諸島以外の分布地でも発見されることは稀であることから、生息密度は低いと考えられる。近年の噴火の影響により生息環境が悪化した可能性が高いが、不明である。

【関連文献】

増子恵一・寺山守, 1984; 寺山守・久保田敏, 2002.

(執筆: 森英章)



© 日本産アリ類画像データベース

ヌカウロコアリ

Pyramica mutica

ハチ目
アリ科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

体長 1.5mm。体色は赤褐色。頭部から後腹柄節にかけて、体表面は細かな編目状の彫刻で覆われる。頭部後方に 1 対、中胸背板に 1 対のへら状の直立毛を持つ。ウロコアリ類に特徴的な海綿状の薄膜付属物は、前伸腹節、腹柄節、後腹柄節ともにあまり発達しない。林縁からやや開けた場所にかけて生息し、土中、倒木中などに営巣する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州；韓国、台湾、インドネシア

【伊豆諸島における生息環境】

不明だが、他の地域と同様に、土中、倒木中に生息すると考えられる。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

式根島、八丈島からのみ記録されているが、近年の情報が不足している。伊豆諸島以外の分布地でも発見されることは稀であることから、生息密度は低いと考えられる。

【関連文献】

増子恵一・寺山守, 1984; 寺山守・久保田敏, 2002.

(執筆: 森英章)



© 日本産アリ類画像データベース

ヒメセダカウロコアリ

*Pyramica hirashimai*ハチ目
アリ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

体長 1mm でセダカウロコアリ *P. hexamera* より小型。体色は黄褐色。大顎は、棒軸部に小歯を欠き、先端部の歯もセダカウロコアリに比べて小さい。頭盾前縁には鱗片状の体毛を持つ。中胸背板は前伸腹節上に張り出すことはない。前伸腹節は突起を持たず、後縁は薄板状の海绵状付属物を持つ。照葉樹林の林床の土中に生息する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生息環境】

利島ではスダジイ・タブノキ萌芽林にてコロニーが確認されている。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島では利島からのみ記録されており、記録は 1 コロニーにとまっている。そのため生息密度は低いと考えられるが、近年の情報が不足している。

【関連文献】

寺山守・村田和彦, 1987; 寺山守・久保田敏, 2002.

(執筆: 森英章)



© 日本産アリ類画像データベース

フシナガムネボソアリ

*Temnothorax antera*ハチ目
アリ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

体長 3mm。体色は黒色から黒褐色。触角柄節は長く、頭部後縁を越える。中胸から前伸腹節背縁にかけての背縁は平ら。後胸溝は刻みつけられない。前伸腹節刺は長く針状。腹柄節の柄部は日本産本属の種の中で最も長い。腹柄節の丘部は側方から見て逆U字状であるが、後縁よりも前縁の傾斜がより急である。

【分布の概要】

伊豆諸島、四国、南西諸島

【伊豆諸島における生息環境】

不明であるが、樹林の林床に生息すると思われる。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島では八丈島からのみ記録されているが、近年の情報が不足している。伊豆諸島以外の分布地でも発見されることは稀であり、八丈島でも生息密度が低いと考えられる。

【関連文献】

増子恵一・寺山守, 1984; 寺山守・久保田敏, 2002.

(執筆: 森英章)



© 日本産アリ類画像データベース

イツツバアリ

*Acropyga nipponensis*ハチ目
アリ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

体長 2mm。体色は淡黄色。頭部は幅よりも長さの方が多少長い四角形。大顎は三角形で 5 歯を持ち、末端の 4 歯はとがり、基方の 1 歯は他の 4 歯から多少とも離れ、大きく、先端が平らになる。眼は小さく、1~2 個の個眼からなる。触角は 11 節で、触角柄節は頭部後縁に達しない。前胸から中胸にかけての胸部背縁は、側方から見て弧を描き、前伸腹節も弧を描く。巣中にはシズクアリノタカラカイガラムシ *Eumyrmococcus nipponensis* が見いだされ、本種はこのカイガラムシの分泌物を餌としていると考えられる。

【分布の概要】

伊豆諸島、四国、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生息環境】

照葉樹林の林床の石下や倒木の下、または土中に営巣する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

伊豆諸島では御蔵島からのみ記録されているが、近年の情報が不足している。

【関連文献】

Terayama, M., 1985; 寺山守・久保田敏, 2002.

(執筆: 森英章)



© 日本産アリ類画像データベース

ムナグロチビドロバチ伊豆諸島亜種 (ハチジョウチビドロバチ)

Stenodynerus tokyanus flavoscutellatus

ハチ目
スズメバチ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

体長 7～9 mm。体は黒色で、前胸背板、小楯板、中胸側板などに黄斑がある。膨腹部第 1、2 腹背板の後縁に黄帯がある。脚の大部分は黄色。膨腹部第 1 腹背板の前方垂直部と後方水平部は明瞭に区切られる。名義タイプ亜種に比べて前胸背板、中胸側板などの黄斑が発達する。♀では頭楯基部に黄帯があり、触角孔間の黄斑も大きい。5～11 月に出現し、ハチジョウイタドリ、アシタバ、テリハノイバラ、シマクサギなどの花にきた記録がある。鱗翅類の幼虫を狩り、既存孔に営巣すると考えられている。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生息環境】

林縁、草地などに生息する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

枯木などの営巣環境と吸蜜植物を維持することが望ましい。

【関連文献】

Yamane, S. & J. Gusenleitner, 1982; 深澤悟・宮野伸也, 2010.

(執筆: 高橋秀男)



ニッポンハナダカバチ

Bembix niponica

ハチ目
ギングチバチ科

伊豆諸島

NT

環境省

VU

【形態・生態】

体長 15～20 mm。体は黒色で、頭楯、上唇は黄白色。前胸背板、中胸背板、小楯板、中胸側板、前伸腹節、腹背板、腹部腹板などに黄白色の斑紋がある。脚の大部分は黄白色。上唇は長く先端に向かってとがる。7～8 月に出現し、ハマボウフウの花にきた記録がある。砂地に営巣し、アブやハエを狩る。幼虫が孵化した後も獲物を搬入する習性がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州; 朝鮮半島、台湾、中国

【伊豆諸島における生息環境】

海浜などの砂地に生息する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

営巣環境である広い砂地が生息に必要なため、海浜などの砂地を保全することが望ましい。

【関連文献】

高橋秀男・松本行史, 1999; 深澤悟・宮野伸也, 2010.

(執筆: 高橋秀男)



フジヤマコハキリバチ (イズコハキリバチ)

Heriades fujiiyamai

ハチ目
ハキリバチ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

体長 4～6.5 mm。体は黒色で細長く、白色の毛に覆われる。膨腹部第 1 腹背板の前面はくぼみ、前面と背面の境界に稜がある。膨腹部第 1～5 腹背板後縁に細い白毛帯があるが、♂では痕跡程度である。♂の腹部後半は腹面方向に曲がる。7～10 月に出現し、ハチジョウイタドリ、テリハノブドウ、イヌザンショウ、アカメガシワ、ツルボなどの花にきた記録がある。枯木などの既存孔に営巣すると考えられている。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生息環境】

林縁、草地などに生息する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

枯木などの営巣環境と吸蜜植物を維持することが望ましい。

【関連文献】

Yasumatsu, K. & Y. Hirashima, 1952; 高橋秀男, 1990.

(執筆: 高橋秀男)



【種名・学名などの準拠文献】

和名、学名、配列は、九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター (1989) を基本とし、評価者の判断により修正を加えた。

九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター (編), 1989. 日本産昆虫総目録. 九州大学農学部昆虫学教室. 1767 pp.

【関連文献】

深澤悟・宮野伸也, 2010. 東京都伊豆諸島のハチ目有剣類. 千葉中央博自然誌研究報告, 11(1): 11-28.

増子恵一・寺山守, 1984. 伊豆・小笠原のアリ採集目録. 蟻, 12: 7-12.

高橋秀男, 1990. 伊豆諸島八丈島における野生ハナバチの調査. 日本生物地理学会会報, 46(21): 171-178.

高橋秀男・松本行史, 1999. 伊豆諸島蜂類分布資料. げんせい, (74): 23-26.

Terayama, M., 1985. Two new species of the genus *Acropyga* from Taiwan and Japan. *Kontyu*, 53: 284-289.

寺山守・久保田敏, 2002. 東京都のアリ. 蟻, 26: 1-33.

寺山守・村田和彦, 1987. 伊豆諸島利島におけるアリ群集と植生との関連. 日本生物地理学会会報, 42: 57-63.

Yamane, S. & J. Gusenleitner, 1982. Die *Stenodynerus*-Arten Japans (Hymenoptera: Eumenidae). *Report of the Faculty of Science, Kagoshima University, (Earth Sciences and Biology)*, (15): 113-127.

Yasumatsu, K. & Y. Hirashima, 1952. Two new species of the genus *Heriades* from the North Pacific Islands (Hym., Megachilidae). *Insecta Matsumurana*, 18(1/2): 38-40.